

ザ・クインテッセンス／2015. 1月号

○特集5／口腔の健康に関するエンドポイントの再考

(鶴見大学歯学部探索歯学講座 花田信弘 他)

*2014年の日本学術会議では、日本の医療者に対し、臓器単位の疾病を解決することを主眼とする「治す医療」から「治し支える医療」への転換を提言し、従来の医療に加えて「生活を支える医療」の創設を求めた。超高齢社会では、病気の完全治癒を目指す「病院完結型」よりも、介護・福祉連携した「地域完結型医療」へ医療を転換すべきだというのが趣旨である。日本の医療のエンドポイント(治療行為の有効性を示す評価項目)が臓器を守ることから、生活の質や死の質を守ることに変わった。花田は、歯科医療も臓器横断的に全身の健康増進を担うように転換すべきだとし、低栄養に現在歯数が関与し、口腔グラム陰性菌のLPSによるエンドトキシンが循環器病、糖尿病、関節リウマチあるいは認知症の発症に関係していることから、通常の歯科医療と並行して栄養とLPSという共通リスク因子に関して十分な患者指導をすることで、「歯科医療と保健指導を掌る(歯科医師法第一条)」という歯科医師法の2つのミッションを達成することができると述べている。6つの分野から各専門医の意見が寄せられており、まとめから要約。

歯界展望／2015. 1月号

○特別寄稿 咬耗にみるエイジングの姿(横浜市開業 丸森 英史)

*突然の歯冠破折や歯根破折により、予期しなかった抜髄や歯冠修復を余儀なくされることがあり、残念に思うことがある。最悪の場合抜歯も必要となることもある。何が誘因なのか?どのように対処すればよいのか?たとえば大臼歯の小窩裂溝のカリエスに対し、どのような修復処置が考えられるであろうか?CR充填、金パラインレー、ゴールドインレー、4/5冠いろいろあろうが長期的に予後がよいのはどのような処置か?対合歯との接触がある場合の30年40年の症例は、咬耗との関係で、写真と模型の豊富さとともに興味深いものがある。ヒトの寿命が長くなったために抱えることになった頭の痛い問題かもしれない。本稿は臨床的問題提起である。

○新春提言 高齢者歯科医療の確立を(国立長寿医療研究センター 角 保徳)

*題名とは離れるが、興味深い数字が並んでいる。12歳児DMF歯数や8020の達成率の年次推移では歯科界の成果は目に見えて評価されてよいものだ。ところが1983年の医科・歯科の収支差額は100.7%で歯科の方が高いのに、2011年では50.7%と半額になっている。この辺の実態を知りたいと思われたらこの7ページの提言をお読み頂きたい。どうすればよいのかの一つの方策が題名とつながっている。

デンタルダイヤモンド／2015. 1月号

○新春スペシャル・シンポジウム：子どもの歯科医療の未来予想図

ー疾病対策から機能育成へのパラダイムシフト(朝田芳信・品川光春・早崎治明・佐々木康成)

*小児のう蝕が減少する一方、酸蝕症や口呼吸は増加している。未来の小児歯科医療では、う蝕予防以外にも、食べる力を育む・味わうことなど、口腔機能の充実を図ることが求められる。少子化で子どもの数は減少しているが、未来を見据え、歯科医師のやるべきことは多くあることを示し、小児歯科専門医との連携、軟組織へのアプローチ、妊産婦検診の重要性など、どのような形で子供の健康をサポートするのかを示しています。是非、一読をお勧めします。

○Dd 摂食嚥下リハビリテーションセミナー：口腔ケアだけではない?

歯科で誤嚥性肺炎にどう対応できるのか一かかりつけ医の役割(植田耕一郎)

*超高齢社会で「誤嚥性肺炎」は大きな問題となってきている。口腔機能が低下した高齢者に対する口腔ケアが「誤嚥性肺炎」を予防することは周知の事実であるが、実際に口腔ケアを行うことは他職種の人にとって非常にハードルの高い仕事である。そして、診療所で行う口腔機能向上支援(摂食機能療法185点)について記載しています。興味深い内容です。

日本歯科評論／2015. 1月号

○＜特集＞新春展望：時代が求める歯科医療の姿とは?—2025年を見据えて(石井拓男 他)

*あと10年後、2015年いわゆる“団塊の世代”が後期高齢者になります。いわゆる超高齢化/社会です。それに伴い我々歯科界に求められてくるニーズも変わってくるのではと考えます。本特集は2015年に歯科に求められている対応や歯科の位置づけを考え、あと10年でどのような体制を整えていかなければならないかを、いろいろな領域のエキスパートがそれぞれの立場で述べています。日々の診療の合間にちょっと10年先を考えてみてはいかがでしょうか。

○歯の外傷患者は突然やってくる! そのとき適切に対応するために1. 乳歯外傷歯への対応(久保周平)

*「子どもが転んで口から血を流しています。診ていただけないでしょうか?」という電話があり、どのような状態で来るのだろうとドキドキして来院を待ったことはありませんか。歯の外傷患者は突然やってきます。その時どう適切に対応すればいいのか。乳歯と永久歯では若干状況異なります。第1回は乳歯外傷歯への対応、必見です。